

有識者会議議事録

日 時：10月11日（金）13:30～15:30

場 所：八幡平市役所3階大会議室

参加者：別紙のとおり

発言者	発言内容
市長	【冒頭あいさつ】 地方創生に関わる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、地方の活性化を目的に取り組むものである。2015年から取り組みを行ったが、なかなか厳しい現状である。その中で第2期の策定を求められており、この有識者会議で意見を頂きながら進めたいと考えている。未来につなげられるように思いを持ちながら作っていききたい。
会長	八幡平市の人口の推移は1980年に約34,000人いたのに対し、2015年には約26,000人になってしまった。2040年の人口推計では八幡平市人口は約16,000千人になっている。この事実に対して目標を18,800人とし、様々な手立てを行うために総合戦略を作成し推進しているといった現状。重ねて高齢者比率も推計値47.5%に対して41.9%を目標に進めている。具体的な施策として4つの基本目標を掲げている。当会議では1期の検証を基に2期に向けた議論が出来ればよいと思う。活発な議論を期待している。
事務局	【効果検証について】 効果検証については、2019年3月に細かい事業の振りかえりを実施したため、今回は各プロジェクトのKPIについて説明する。 資料 1-2 人口の測定は「岩手県人口移動報告年報」を採用しており、H26の26,913人に対し H30は25,055人となり減少をなかなか止められない状態である。 資料 1-1 H30年度はA評価が18、B評価が20、C評価が43。Aが2つ減っているうちの1つは数値公表前のため、もう一つはプロジェクト⑧の教育旅行受入校数がC評価となったためである。一方で教育旅行客は増加の傾向。Bの数は変わらないがプロジェクトの評価の上下はある。 A評価の中でも、特に①新規就農者数、起業件数は数字の増加も見られ順調に推移している。②平舘高校の生徒数もAと順調。基本目標2の観光

	<p>入込客数、観光等宿泊客数も右肩上がり順調で、特に外国人観光客は基準値よりも倍以上の数値となっている。総じて、基本目標1・2に関してはA評価も多く概ね順調と言えるが、一方で、基本目標3・4に関しては評価が厳しい現状である。</p> <p>その中でも、特に起業件数に関して、起業志民プロジェクトが実績を上げている。起業志民プロジェクトのメニューの一つであるスパルタキャンプは市内で無料のプログラミング教室を実施するもので、2015年の応募者数が70名だったが、2019年は1,231人となっており、市外の若い層の注目を集めている。この取り組みを通じて、地域おこし協力隊や市内での起業など、一定数の成果を出せている。</p>
<p>会長</p>	<p>資料 1-2 表 1</p> <p>人口に関して補足すると、社会増減のデータで年々少しずつ減少し、昨年は2桁にできたことがわかる。一方、自然増減は高齢者の方が亡くなるといった要因で増加。結果的に総人口が減少となっている。</p>
	<p>資料 1-2 表 2</p> <p>女性の人口がH12からH30で約半数になっており、出生率を上げるのはもちろんだが、そもそもの母数を改善できないと人口減少に歯止めが利かない。対策を考えないといけない。</p> <p>事業の中では4つの項目のうち、前半の2つは概ね結果が出ているが、後半2つ、特にコンパクトなまちづくりに関しては注意して考えなければならない。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>県内就職率が90%から80%になったのはなぜか？</p> <p>H30は数値が低くなっているが、そもそもの母数が少なく数字が振れやすい。諸事情で東京に行かなければならない生徒が若干数いたため、気にする数値ではないという認識。今年度は30名内定、17名が市内。県内27名。県内就職率90%ほどで、昨年度はイレギュラーだった。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>観光客の入込数が目標に満たないことに対する対策は？</p> <p>全体の入込客数は増加傾向。特にインバウンドは増えている。国内客の数には、力を入れているが増えている現状ではない。海外(インバウンド)を維持しつつ八幡平ドラゴンアイを生かして国内を伸ばしたい。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>地域おこし協力隊の定着の支援はしているか？</p> <p>これまでの採用数は17名、内11名が卒業しその中で6名が市内に在住している。農協さん等を通じて仕事を紹介、住まいを探す支援は行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>地域おこし協力隊の方が市民と触れ合う機会がない。発表も市長向けに</p>

<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>会長</p>	<p>年1回やっているようだが、もっと市民向けに対しての発表の場があってもよい。</p> <p>確かに卒業時に発表は行っているが、市民の方に対しての機会は少なかった。これから実施の仕方を検討する。</p> <p>卒業時以外にも年に1回発表の場があってもよいのでは。卒業の時に発表しても活動が終了するので、あまり意味がない。</p> <p>地域おこし協力隊になり1年経過し、現在は企画財政課の移住定住にかかわっている。活動の自由度はとても高いが、市民の方との交流は非常にすくない。市民の方との交流の場があってもよいと思う。定住については活動の自由度が高くスキルを活かす活動ができるため、定住する方法を模索できるのはありがたい。</p> <p>仕事に拘束されない分、楽なのではないかと聞こえる。</p> <p>OGとしての意見。昨年度から事業を始めた。馬と里山の暮らしをテーマしている。任期中は忙しかった。2年で基盤を作り3年で形にするのは、長いようで短い期間と感じた。市民の方とのコミュニケーションをとれるようになったのは最近で、それまでは生活に馴れることに必死だった。今の立場では話す機会を頂いて対応できるが、現役隊員は難しい。しかし、つながりの場は頂けると助かる。</p> <p>せっかく八幡平市に来たのに交流がないまま去ってしまう事はもったいない。場を設けるべき。</p> <p>岡山では地域おこし協力隊のOBが起業やNPOを立ち上げ、現役隊員の支援を行っている。ぜひ分析を行い支援してほしい。</p>
<p>事務局</p> <p>会長</p> <p>説明員</p> <p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>【総合戦略の策定スケジュール】</p> <p>これまでの改善点を踏まえ、3月までに策定を進める。推計は12月中を目途に、アンケートは10月に3,000名、郵送により実施する。ヒアリングは市内の企業様へ、採用状況などを含め実施予定。子育て世代へも同様に深い意見を聞きたい。20代の大学生を中心にしたワークショップを考えている。これらを踏まえ、人口ビジョン、総合戦略を策定する。国は12月末に総合戦略を策定、県は3月末になるので、それぞれ中間案を含め勘案して進める。有識者会議は1月下旬あるいは2月初旬に開催予定としており、策定案についてご意見を頂きたいと考えている。</p> <p>SNSの基礎調査分析はどのようなものなのか？</p> <p>twitterのデータをベースにどういったキーワードが出てきているかを見る。主軸にはならないが、観光などをメインに参考に使う。</p> <p>アンケートは市内在住者か？</p> <p>前回同様、市内在住者3000名。</p>

会長	関係人口を考えたときにアンケート対象者は適切か？何かしらの方法で図る必要があると感じる。
説明員	ヒアリングの部分で、地域おこし協力隊をはじめ外から来た人たちにヒアリングをすることで感覚はつかむことができると感じている。
説明員	<p>【第2期総合戦略の策定のポイントについて】</p> <p>① 地方創世の現状</p> <p>日本の人口は急激に減少している。この背景に対し、まち・ひと・しごとに対して視点を置いた対策を行ったのが、「まち・ひと・しごと創生法」で、施策が総合戦略である。各地域ほぼ全てで総合戦略が作られており、人口部分は、生産年齢人口と出生数の減少は止められない、就業者数は増加できた、といった結果になっている。東京の人口は全人口の3割になってしまっている。</p> <p>地域経済としては、人手不足が深刻な課題になっているが、オリパラが決定したこともあり、外国人観光客は増えている。</p> <p>資料3【1-4】</p> <p>人口減少の推移を記載。2110年にはネガティブ曲線だと5,343万人になってしまう。この部分の改善を図りたいと記載されている。</p> <p>資料3【1-5】</p> <p>東京一極集中が止まらない。諸外国と比べても首都圏依存、人口が集中してしまっている。各県への人口の平均化がポイントになってくる。</p> <p>② まち・ひと・しごと創生基本方針</p> <p>資料3【2-1】【2-2】</p> <p>第2期の方向性は、基本的には第1期の継続、計測評価となる。それに新たな視点を追加することを求められている。</p> <p>資料3【2-3】</p> <p>1：地方へのひと・資金の流れを強化する</p> <p>大きくは関係人口の創出拡大。政府からも関係人口は強く言われている。</p> <p>2：新しい時代の流れを力にする</p> <p>ソサエティ5.0などのIoTの推進や、SDGsが該当する。地方発信のインバウンドがポイントになる。</p> <p>3：人材を育て活かす</p> <p>地域おこし協力隊など、地方創世の人材育成。</p> <p>4：民間と協働する</p> <p>公共団体だけではなく、民間と協力し地域社会の担い手となる組織を作るといったこと。</p>

5：誰もが活躍できる地域社会をつくる

地域において女性の転出が増える中で、女性が活躍できる地域社会を作り、生活のしやすさを支援する。また、外国の方の生活にも目を向け、支援することが必要である。

6：地域経営の視点で取り組む

地域に根差した経済社会構造を俯瞰しマネジメントする。

資料3【2-3-a】【2-3-b】

ソサイエティ 5.0 の説明。今は 4.0 インターネットにつながり情報を交換できるようになった。ソセティ 5.0 は新しい技術により物と物がつながる時代。具体的には参考資料をご参照のこと。

資料3【2-3-c】【2-3-d】【2-3-e】【2-3-f】

SDGs 国連サミットで 2015 年採択されたものであり、17 の目標と 169 の具体的なターゲットに基づき設定されており、各国が目標して取り組むものである。国としても力を入れており、地方版の SDCs の設定もある。17 のゴールについては参考資料をご参照のこと。アクションプランの中に地方創生の文脈もあるため踏襲する必要がある。2025 年万博のテーマは SDGs であり国民の関心も高まると考えられる。

資料3【2-4】

まち・ひと・しごと創生基本方針については、大きく 5 つの目標がある。この中で重要な点を次ページ以降で説明。

資料3【2-5】【2-6】

関係人口について

関係人口は観光的な交流人口だけでなく、移住、定住、仕事を通じたつながりなども該当する。現状の実施事例を P22 に記載。八幡平市では、副業や兼業の取り組み部分だと思っている。

資料3【2-7】

地域戦略人材支援パッケージ

副業や兼業の取り組みが進む中で、地域の企業や出生地の仕事に携わるケースが増えている。

資料3【2-8】

「海外から稼ぐ」地方創生

インバウンドが主流だったが、訪日外国人客も増え、産品、加工品の輸出業過の動きもある。中国などでは輸出規制の問題もあるが緩和の方向、さらにはアウトバウンドなどの拡大もテーマになる。八幡平市では、りんどうなどが該当するかと考える。

資料3【2-9】

<p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>Society5.0 の実現に向けた技術の活用</p> <p>事例としていくつかあるが、地方自治体としても実験的に取り組んでいるところもある。八幡平市でも、取り組みのあるパートナー企業を見つけ、推進することも必要かと思うし、国からの支援も見込まれる。</p> <p>資料3【2-10】</p> <p>地域の将来を支える人材育成のための高校改革。地元高校、県内大学への進学、これらを連携したまち作りは重要になる。ポイントとして4つ挙げられている。</p> <p>資料3【2-11】</p> <p>個々の希望をかなえる少子化対策と誰もが活躍できる地域社会の実現。出生率の低下は課題だが、少子高齢化は避けられない。地域独自の対策も必要といわれている。女性・高齢者・外国人などの活躍の場をつくる。特に外国人の方は地域への定着に向け動きがある。</p> <p>資料3【2-12】</p> <p>スポーツ・健康まちづくりの推進。八幡平市は冬季スポーツに強みがある。地域独自の健康コンテンツを充実させたまち作りが重要となる。</p> <p>国のあらたな視点の中ですでに行っているものもあるため、踏襲して進めたい。</p> <p>国が定めることをそのまま行うわけではなく、第2期は八幡平市の特色をいかに盛り込めるかが重要であるため、策定に生かしてほしい。</p> <p>東京へは仙台が一番人を送り込んでいる。特に女性は圧倒的に多い。仙台は東北から人を集め、東京に人を送り込んでいるハブのような状態になってしまっている。2017年実績では、岩手県から845人が仙台に行き、そこから東京へ流れている。八幡平の場合は、盛岡に人が流れ仙台や東京へと人口の流出がある認識である。一方東京圏からの転入者が多い市には何かしらの改善ヒントがあるはず。南や西のほうには成功事例があるが、東北エリアには存在しない。何が要因か。</p> <p>Society5.0は5Gで情報の送受信がものすごい速さになるため、農業の自動化や、どこにいても対面で話すような仕事の仕方が可能になる。八幡平市としては追い風である。MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）に関連して、八幡平は公共交通の情報整理が必要。目的地までのタイムスケジュールが立てづらい。人が入ってくるには重要なことである。</p> <p>SDGsは一番大切なのは「誰も置き去りにしない」という項目で、国はこの部分を地方創生と捉え進めている。</p> <p>第1期ではなかった関係人口の話が出てきた。UIターンや孫ターンな</p>
----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>どの新しい関係人口の考え方もある。</p> <p>若い世代の結婚、出産などの支援も必要。市長も言っていたが、若者が未来を持てる場所にしなければならない。沖縄になぜあこがれて移住するのか？なんで屋久島などは人が増えるのか？八幡平の魅力は何が足りないのか？考える必要ある。東京生まれ東京育ちの4割以上は東京以外に住みたいという調査結果もある。</p> <p>これらの内容を総合戦略に盛り込めると八幡平市らしいものが完成する。是非 20,000 人の人口が残るような明るい未来を描ける策定にしてほしい。</p> <p>個人レベルで感じていることは、マッチング業、プロデュース業が必要であるということ。仕事や住宅、資材、機械はあるが、マッチングできない。市内にある不動産業に載っている物件は限られたものしかないが、実際に足を運ぶと掲載していない物件がたくさんある。魅力を感じても情報が足りず行動が進まないといったことが起こっていると思う。八幡平の魅力が伝わっても住むための情報が整っていないのが現状である。観光と移住でも、用意された場所に行くより個人でリアルな暮らし方を見たいといったニーズがある。暮らし方、生き方を感じるための体験プログラムは求められている。いま50代の余裕のある世代からの相談に乗っているが、手いっぱい支援しきれていない。市で不動産業やDIY（大工）のできる人を抱えることはできないか。</p>
委員	<p>Sansan は元々小学校のPTA からスタートし、空き家紹介のニーズを見つけ今の状態に至る。阿部さん中心に頑張ってもらいたい、行政としても支援してほしい。</p>
会長	<p>Society5.0 で AI や IoT などデジタル化が進むと、今人が求めている人のふれあいが損なわれてしまう気がした。本来の八幡平の魅力である動物と人との共生や豊かな自然、食、観光は重要なテーマになると感じている。八幡平が世界に誇れるものの1つに地熱発電がある。発電量は、八幡市をカバーできる量があるが、市民が電気を購入できるなどの取り組みができると個性的と感じた。</p>
委員	<p>1月に発電所ができた。せつかく地元で発電ができるのだから、地元の還元方法の依頼をしている。現状は高圧電力が必要な部分は交渉した。そのほかの部分は少し先になる。</p>
市長	<p>八幡平市を選ぶきっかけの一つに「小さいころ来た」など一度訪れた場所への再訪はあると思う。教育旅行客数が H28 年で落ちているのはとてももったいない。あとは平館高校を市立化して地域に必要な人材を地元で育成できると良いと思う。</p>
委員	

事務局	<p>教育旅行に関しては、札幌などの学校を中心にお願いはしている。昨年度の数値を見るとほとんど県内、次に東京、宮城と続く。減少幅が大きいのは青森で、新幹線開通などの影響があるかと思う。引き続きセールスを行っていく。</p>
教育長	<p>期待しているのは、4年後開校のインターナショナルスクール。日本にたくさんある候補地の中で、なぜ八幡平市かと聞くと、八幡平でないと経験、体験できないことがあるというのが誘致の最大の要因だった。四季を通した自然体験に魅力に感じている。ほかには、日本文化との交流、地域との交流を積極的に進めたいとのことだった。世界中から優秀なスタッフが来た時に、八幡平市としてどう受け入れるか。文化を受け入れるか。検討し、学園都市が孤立しないように考えていかなければならない。阿部さんとの取り組みで馬に乗って八幡平をめぐるなどの活動ができると魅力的。</p>
会長	<p>他にハロースクールへの意見はないか。</p>
委員	<p>馬を使って八幡平市の各地を回れるコースを作れたらよい。乗馬トレッキング。馬の長い距離のレースもあり、北海道で行われている。今飼育している馬も小さな品種で、海外からみたら魅力がある珍しい馬。</p>
委員	<p>やはり子供が最終的に八幡平市に戻って来てほしい。なので、来年から始まるコミュニティスクールはしっかりと方向性を定めて実施してほしい。八幡平への故郷愛を教育してほしい。</p>
教育長	<p>来年で市内すべての小中学校が導入完了となる。平館高校さんも取り組みを開始する。地域とともにある学校をテーマに進めている。その延長で中高連携教育推進プランを考えている。中学校4校と平館高校の連携で八幡平市での学びを深めることを目的にしている。現状意見を回収している段階であり、今後計画を推進していく。</p>
委員	<p>地域に根差した高校を目指している。宣伝が悪く知られていないが家政クラブなどで全国クラスの賞を取っている。市民の方へのまくらを贈呈し健康を願うなどの取り組みも実施している。現状は定員割れ。危機感をもって進めていきたい。</p>
委員	<p>子育てに力を入れていて感謝している。学童保育料が無料は他自治体にはない取り組み。対外発信は何らかの形で進めていきたい。自身の取り組みでは食育に力を入れている。各地域のからご支援いただき餅つきや料理教室を行っている。継続して行いたい。</p>
委員	<p>有効求人倍率が高い現状。昨年に比べピークは過ぎたが、当面は1倍以上が続く見込み。目標にある県内就職率80%でC判定は非常に高い目標で、志が高く感じた。盛岡で見ると80%に満たない。現状の数字は地域で</p>

<p>会長</p>	<p>の取り組みの成果であると感じた。</p> <p>地域おこし協力隊で定住している 11 名のうち起業しているのはどのくらいいるのか。仕事のアピールの場がない。市のほうで企画してはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>以前、陸前高田市では高校生が市民に夢を話すような機会もあった。コンテストといった形だったが、何らかの形で実現できると良いと感じた。地域おこし協力隊を卒業し、夫婦で宿泊事業を行ったり、カフェや IT 系の仕事をされていたり、八幡平市に残っている人は多いと記憶している。ほかの市に行かれた事例はごく少数である。八幡平市を気に入っていただいている認識でいる。</p>
<p>委員</p>	<p>マッチングは金融機関も取り組み始めている。金融機関には情報が集まるので、有効的に活用できればと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>若い人の支援は行っていきたい。個人的にはスポーツなどで八幡平市に来た時の思い出は残るのでぜひ進めてほしい。</p>
<p>市長</p>	<p>人口が減っているため、スポーツ大会参加者が減っている。少子化が減少の最大要因。</p>
<p>委員</p>	<p>東京から人口を奪っている他市町村の分析から。八幡平市には一級の資源があるのに、なぜ白馬やニセコになれないのか。海外からの不動産投資がなぜないのが疑問。投資をけん制するような動きがあるのか。</p>
<p>市長</p>	<p>投資を止めた事実はない。営業を始めているが結果はまだ出ていない。ニセコはピークが過ぎた。次は白馬に注目し、人材交流の連携を進めている。</p>
<p>委員</p>	<p>市が子育て、教育に投資していることに安心した。未来に向けて明るい未来が見える八幡平市だと感じた。今後も続けてほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>スパルタキャンプに世界中から約 1,800 人応募がることは素晴らしい。マスコミに取り上げられるのも大事だが、SNS で情報が流れることも大切。5G が出てくると働き方が変わる。東京のごみごみした環境よりも八幡平市のような自然の豊かな場所で働く人も増えてくる。この辺を加味して次期の策定を行ってほしい</p>

○ 八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議

令和元年10月11日開催

(委員)

(敬称略、備考欄※は新任)

各界別	団体別	職名	氏名	備考
産(5名)	商工会青年部	青年部	遠藤 忠寿	
	観光協会	理事	石田 秀悦	欠席
	企業懇談会	(株)サラダファーム	田村 恵	欠席
	J A新しいわて青年部	青年部西根中央支部長	田村 和大	欠席
	N P O 法人七時雨いきいきネットワーク		畠山 潤	
官(2名)	盛岡広域振興局	副局長	岩渕 謙悦	欠席
	盛岡公共職業安定所	所長	四役 富雄	※
学(3名)	平舘高等学校	副校長	中舘 豊	
	岩手大学	学長特別補佐・特任教授	小野寺 純治	
	岩手県立大学総合政策学部		山本 健	
金(3名)	岩手銀行平舘支店	支店長	布田 学	
	北日本銀行平舘支店	支店長	斉藤 幹範	
	盛岡信用金庫西根支店	副支店長	牛抱 昭	
労(1名)	社会福祉法人安代会	事務局長	畠山 勇司	欠席
言(1名)	岩手日報社	八幡平支局長	及川 慶修	欠席
市民 (5名)	松野保育所父母会	父母会長	大巻 飛鳥	欠席
	大更小学校PTA	会長	遠藤 武敬	欠席
	松尾中学校PTA	会長	林 祐介	※
	地域おこし協力隊	O G	阿部 文子	
	地域おこし協力隊	隊員	松本 侑子	
計(20名)				

(市)

職名	氏名	職名	氏名
市長	田村 正彦	地域福祉課長	松村 錦一
副市長	岡田 久	健康福祉課長	村上 直樹
教育長	星 俊也	農林課	田村 泰彦
総務課長	津志田 勇孝	商工観光課長	遠藤 幸宏
地域振興課長	渡辺 信	教育総務課長	工藤 久志
市民課長	小笠原 文彦		
事務局(企画財政課)			
(事務局長) 企画財政課長	佐々木 孝弘	主任	舘柳 竜一
企画財政課長補佐	工藤 紀之	主任	坂本 幸子
企画財政課長補佐	畠山 健一	主任	香川 豊
地域戦略係長	関 貴之		